

新潟県

公民館月報 7

平成13年7月号 通巻第581号



表紙 新発田あやめまつり
(新発田市公民館)

特集 ドイツの地域教育事情を視察して

視点 私の願い

ひろば S担当との学社融合

サークル交流 さり絵倶楽部 (上越市立公民館)

月潟陶芸クラブ (月潟村公民館)

素顔拝見 遠藤丈弥さん (燕市)

仲谷大輔さん (青海町)

◇永年勤続者表彰(敬称略)

No	氏名	所属公民館並びに役職
1	西條 靖子	上越市立公民館 公民館協力員
2	佐藤 千枝	三条市中央・嵐南公民館 運審委員
3	西脇 精次	三条市本成寺公民館 運審委員
4	小浦 方市	三条市本成寺公民館 運審委員
5	石田 守男	三条市大島公民館 運審委員長
6	梶野 敏雄	柏崎市柏崎公民館 運審委員長
7	戸田 洋子	柏崎市北条公民館 地区指導員
8	知野 栄	加茂市公民館須田分館 主事
9	星野 林	燕市中央公民館 運審委員
10	平岡 安雄	小須戸町欠代田分館 前分館長
11	斉藤 正之	小須戸町小須戸分館 副分館長
12	加藤 レイ子	分水町中央公民館 前運審委員
13	古澤 功	分水町中央公民館 前運審委員
14	武藤 眞	板倉町公民館 運審委員長
15	蛭子 健治	青海町公民館 運審委員
16	神丸 文夫	粟島浦村中央公民館 前館長
17	松浦 春次	粟島浦村中央公民館釜谷分館 前館長
18	本保 銀一	粟島浦村中央公民館 前運審委員長
19	信田 郁朗	赤泊村公民館 前公民館役員

第1回正副会長会開催

第52回新潟県公民館大会における受賞候補の選考終る

永年勤続表彰は十九名 優良公民館は該当なし

去る6月11日(月)、新潟市中央公民館で第1回正副会長会が開催された。

主たる協議題は、第52回新潟県公民館大会における優良公民館表彰並びに永年勤続者表彰候補の選考であった。一、優良公民館の部では、あらかじめ推薦の

あった公民館は1館もなく、今回も該当なし、という結果に終わった。二、永年勤続者表彰の部では、公運審委員11名、館長・分館長4名、協力員・指導員、主事・役員4名の計19名がいずれも適格と認められ、全員受賞となった。なお、受賞決定の永年勤続者は、左欄のとおりである。

三、全公運創立50周年記念表彰候補者の推薦状況、並びに全公運創立50周年記念文部科学大臣表彰の推薦状況について情報交換がなされた。四、第52回県大会の当日の準備体制についても情報交換がなされた。五、その他として、今井会長、二ノ倉副会長から、全公運総会の状況について報告がなされた。

全公運総会開催

新会長に

松下 誠氏

第42回通常総会は、去る6月8日(金)、東京・虎の門パストラルで開催され、平成12年度事業報告、収支決算(文書による決算監査結果報告付)、次いで平成13年度事業計画案、収支予算案(50周年記念式典がらみで大幅増)が提案され、承認された。任期満了に伴う役員改選では新会長には松下誠副会長(関プロ公運参与)が昇任し、また理事補充に伴う新理事には、今まで監事であった当公運今井昭友会長が選任された。

なお、第24回全国公民館研究集会について、大会事務局の長野県公運より進捗状況について説明がなされ、次いで次回第25回大会について、愛媛県公運より予告がなされた。

都道府県公連

事務局長会再開

ここ数年途絶えていた都道府県公連事務局長会議が再開された。去る6月19日(火)、東京・虎の門パストラルで開催され、全公運創立50周年記念大会への支援・協力態勢の確立を中心に説明がなされた。

『新潟県公民館五十年誌』完成!!

実践事例集 地域づくりと公民館

社会教育学級等における

学習計画立案の手順と方法

元横浜国立大学教授 吉川 弘著

A4版 300ページ 3,000円

A4版 88ページ 5,000円(送料実費)

B5版 44ページ 5,000円(送料実費)

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共・年極 1,800円

申込先 ☎951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 ☎・FAX025-224-6073

□はじめに
今年、三月一日(木)から二十二日(木)までの約三週間、新潟市職員海外派遣プログラム(自主企画、派遣期間一か月以内)で単身、ドイツ連邦共和国を訪問してきました。

この研修制度は、国際的な視野を備えた職員の養成をねらいとして、平成元年度にスタートしたもので、これまでに二十数人がこのプログラムで渡航しています。

実は、この制度は、私が人事課にいた時に始まったもので、特に若い職員に海外で武者修行



事情を視察して

近 藤 敬

をしてもらおうということを始められた経緯もあり、当時を知っている局長辺りからは、「あなたのような年寄りが行かずに若い人を遣ったら？」などと言われもしましたが、上司の「チャレンジ精神は大切」との有り難い一言で応募させてもらったものです。

□研修のねらい

チャレンジ精神はよかったです。ですが、公民館に異動後僅か二か月、右も左もわからない内に「生涯教育」といえばドイツしかないだろうと、よく考えもせず応募したため後が大変でした。秋も深まっていざ調べ始めると、わかった問題点が二つ。

一つはドイツの教育制度が三分岐制という日本とはまったく違うものであること。

二つ目は、日本の「社会教育」という概念や「公民館」自体が極めて特殊なもので、ドイツには勿論これに該当するものがないということでした。

実際、「公民館長」という肩書を英語に直すと「Director of Community Center」となってしまう、ドイツからの手紙が何通もコミセンに行ってしまうという事態が起きたのです。

また、ドイツにもフォルクス・ホッホシューレ(成人学校?)

という日本の「公民館」にやや似たものがあるのですが、このVHSは、どちらかと言えば公営のカルチャースクールと言った方が適當で、それこそ語学や経済学、法律などのアカデミックな科目から美術・工芸、文学など趣味的な講座、さらにはコンピュータや職業訓練的な科目スポーツまでありとあらゆる分野を網羅している上、外国人でも受講でき、授業も自前の校舎(事務局だけのVHSもある)だけでなく、学校や市の施設などを借り上げて行っているということから、日本の「公民館」とは全く異質なものと言えます。

そもそもドイツという国自体が教育に限らず、日本とは対局にあるというから、かの国の同様の施設を見学して事足りるという、安直な考え方が通用しないことがわかってきました。

そこで、今回は日本との比較の中で、ドイツの教育システムをよく見てくるしかないと感じをきめることにしました。

常々自分で言っている「研修はそれだけで完結するものではなく、自己啓発のための気づきと動気付けに過ぎない」ということを身をもって体験したという訳です。

少し前書きが長くなり過ぎた気がします。以下で今

回の研修の雰囲気だけでもお伝えできれば幸いです。

□全体研修日程

- ・三月二日(金) 成田→フランクフルト→シュトゥットガルト
- ・三月(土)→十二日(月) テュービンゲン市滞在
- ・十三日(火)→二十日(火) トリア市滞在
- ・二十二日(木)は帰国



中世の都市を思わせるテュービンゲンの町並み

□研修の概要(テュービンゲン)

○三月三日(土)
広大なフランクフルト空港で迷子になったり、シュトゥットガルトのホテルのフロントに、帰りのホテルクーポンを巻き上

げられるなど多少のトラブルはあったものの、お昼前に何とか、冷たい雨の降りしきるテュービンゲン駅に降り立ちました。

その前に、危うく駅を乗り過ぎすところを、妙齢の美しい女性に教えられて飛び降りたり、駅の地下通路で反対の方向に歩いているところを、初老の女性がわざわざ追いかけてきて教えてくれたりと、旅行中、特に中年以上のドイツの女性の親切には何回も助けられました。

最初の訪問地であるテュービンゲン市は、ベンツの本社があるシュトゥットガルトから電車で約一時間の、大学を中心とした都市で、人口八万人の内、二万五千人が大学関係者ということとです。

○三月六日(火)

テュービンゲン大学訪問。
午前中は、国際交流部で大学の概要について説明を受け、午後には今回、テュービンゲン市での受入れをお願いした小山市先生が所属する日本文化研究所を訪れ、小山先生から施設を案内してもらいました。

大学は、一四七七年に神学部からスタートし、現在は十六学部、学生二万人、職員五千人を有する総合大学で、キャンパスは町中に散らばっているそうで

《ドイツ連邦共和国》

ドイツの地域教育

新潟市北地区公民館長

す。

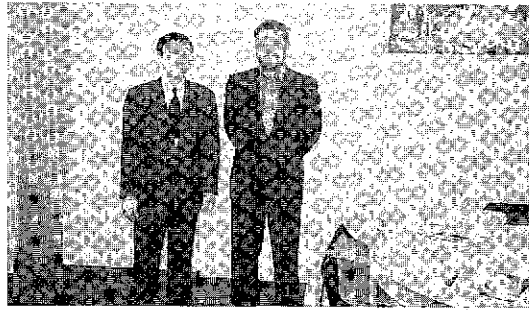
昨今は、教授といえども研究だけでなく、具体的な事業に参加することを求められているとのことで、日本文化研究所でも経費節減で日本の新聞が取れなくなってしまうそうです。

○三月七日(木)

午前中、市役所を訪問し、G・ヴァイマー市長(教育担当)が自ら州と市の教育について話しをしてくれました。

若い頃、教員をしていたという市長は教育に造詣が深く、また、SPDの市議会議員でもあることから、十歳という早い段

階で進路を決めてしまう三分岐制の問題、義務教育の全日制化学童保育などについて詳しい説明がありました。
また、小山先生自ら通訳を買って出してくれたこともあり、話が弾んで、市長が入れてくれたコーヒーを飲みながら2時間も話し込んでしまいました。



ヴァイマー市長と

この他、チュービンゲン市での視察先は以下のとおりです。

・三月七日(木)チュービンゲン成

人学校

・三月八日(金)ジルヒャー小学校

チュービンゲンズ

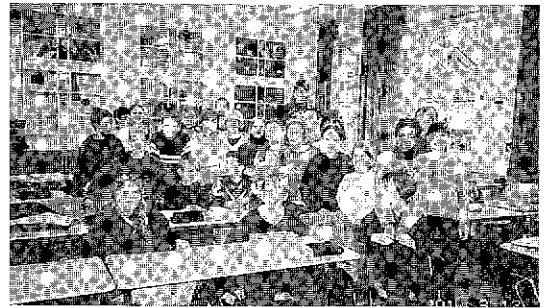
ポーツクラブ

ネッカー学童保育

・三月十二日(月)ユーゲンボルツ

ギムナジウム

(私が日本語を教える羽目に)



ユーゲンボルツギムナジウム1年生のクラス

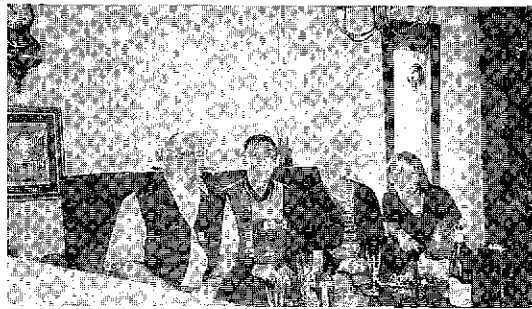
□研修の概要(トリア)

チュービンゲンでの充実した研修を終え、三月十三日(火)にトリア市へ移動しました。

トリア市は、ワインで有名なモーゼル川中流の中心都市で、ルクセンブルグへは車で三十分、人口は約十万人、ドイツ最古の都市で、ローマ時代の遺跡である城門(ポルタニグラ)や浴場が残っている観光都市でもあります。また、長岡市の友好都市ということで、同市の取り

なしで、友好親善大使であるJ・アウバート氏には大変お世話になりました。
また、チュービンゲンで精力

的に視察をこなしたため、トリア市では余裕を持って日程を送ることができました。
さらに、アウバート氏の顔で普通は行けないようなところへも連れて行ってもらいました。



アウバート氏宅にお呼ばれ、ご夫妻と通訳のアイゲルさんと

トリア市での公式訪問等は以下のとおりです。

・三月十五日(木)州青少年スポーツ表彰式(マイ

ソック)

・三月十六日(金)シュレリア市長主催優秀ワイン試

飲会

・三月十七日(土)トリアスポーツ

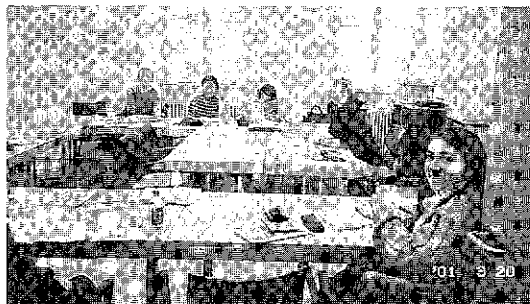
クラブ訪問

・三月十九日(月)トリア大学日本

文化研究所

同教育学部

トリア市役所
G・バナディン市長(教育担当)
・三月二十日(火)トリア成人学校



トリア成人学校(YHS)ドイツ語の授業の様子

□おわりに

どんな教育制度も満点はないわけ、日本の教育の枠組みについても、今後さらに、皆で考えて行く必要があるとの思いを深めて帰ってきました。
この度のドイツ訪問に際しては、館のスタッフを始め、多くの方々にご多大なご協力を頂きました。

ここに厚くお礼申し上げます次第です。ありがとうございました。

《研修報告記》

第12回公民館全国セミナー参加報告

そのII

4月号の特集欄で掲載すべきところ、紙面の都合により今回となりました。遅くなりましたことを、ここにお詫びいたします。

◆全国セミナーに参加して◆

公民館活動もいよいよ期待と不安の21世紀へと舞台を移した。公民館職員のおくは「公民館の使命は既に終ってしまった」「財政事情の厳しい中、経費が安上がりなコミュニティ施設に置き変ってしまうのでは」と、すっきりしない日々を送っているのでは。そういう公民館関係者の危機感の中で開催された公民館全国セミナーであった。

◆公民館設置の所期の目的は達成?◆

戦後の民主化推進と荒廃した地域社会の再構築を目的に公民館が設置された趣旨からすると、

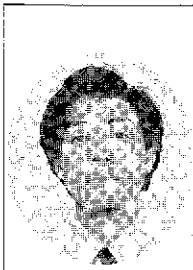
公民館としての役割は終わったのではないのか。もっと経費のからないコミュニティや女性会館等の専門機関に置き換えた方がいい、そういう方向に行政が向かいつつあるという考え方がある。公民館職員が従来の手法や経験だけで仕事をしていれば、高齢社会を迎えた今日、それらに対する施策の優先順序から、当然のことながら住民サイドから退場を求められるのは必至である。

本日にそれでいいのか、公民館設置の所期の目的が達成され

たことは率直に認めるとしても、だからといって公民館が消えてしまってもいいのだろうか。

◆時代をリードしてきた公民館◆

全国の公民館関係者は、今まで前述した公民館の設立目的が達成しつつあった一つの時代にあっても、住民ニーズを的確に捉え、学習や創作活動、それらの成果の発表等を通して心の豊かさや生きがい対策、コミュニティづくりへの貢献、さらにはOECDが唱えたりカレント学



「公民館は21世紀も住民の負託に応えられるか」

前新発田市公民館長 小島 一修

が集まらない講座は止めればいい。日から隣が落ちるとはこのことか。ニーズのないところにあえていたのではないのか。自問自答してみた。住民のニーズが大きく変わっているのに、自分が気が付かないだけでないか。先輩が築き上げてきた従来の手法から一歩も抜け出していないからではないのか。

◆講座開催目的の明確化◆

講座や教室を開催する時、何のための講座なのか、税金を投入してもやるべきことなのか。

◆力ギは、まちづくりと生活文化の発信◆

学習成果を地域に還元することが重要であるのは誰もが分かっていたことではあるが、実際目に見える形で表すとするとなかなか難しい面もあった。

習を基軸とする生涯学習理念の実践等、常に時代をリードする事業を展開してきた。それ故に、公民館の所期の目的を達成した今日、今なお住民の支持をいただいで存在しているのである。

このことは、公民館関係者の昼夜をいとわぬ献身的努力によるところが大きい。

今回参加したセミナーでは、「講座を開催しても人が集まらない。どうしたらいいものなのか」。そうした参加者の疑問に対し、文部科学省の結城社会教育官の回答は簡潔明瞭だった。「人

インターネット等の急速な普及により、公民館の学習活動から情報を得なくともいい時代となったのでは。こう考えていくと、講座を開催する時、受講生の目的にかなっているのか検討してみるのが生じてきている。例えばパソコン教室でいえば、講座を受講する目的はパソコンの操作ができるようになることである。学習の目的が明確であり、そういう分野のニーズは高く、単に知識を取得するだけでは満足がいけないのである。知識だけの取得だったらインターネット

トやテレビ、書籍の方が勝れているのだから。学習したら、それをどう生かすか、地域の文化創造にどう寄与するのか、まちづくりにどう役立てるかが重要なのである。マズローの欲求階層の最上部に位置する自己実現や、社会的な貢献という視点なくして今後の公民館はないと思う。

今、インターネットという手段を手に入れた現在、公民館も有効活用しない手はない。学習目的の一つをホームページ作成におくこともできるし、ホームページを通じて全国の愛好者等と交流することもできるのである。また、アクセス数という具体的な数値で評価することも可能となった。公民館活動あるいは、その結果を生活文化の発信として位置付けることができれば、まちづくりに、ひとつづくりに大いに役立ち、21世紀にあってなお一層公民館の必要性が高まるものと確信する。

サークル交流

感性を大切にしています

きり絵倶楽部

市の公民館講座終了後、平成十一年秋に自主活動グループとして発足しました。

この会のきり絵は、カッターナイフで黒い紙を切り抜き、白い紙に貼る技法です。時には、色付けもします。

現在、会員数は十四名です。

まだまだ未熟な者ばかりですが風景、花、キャラクター、人物そして想像作品等、得意分野があり、作品は個々の感性で表現し、「コピーからオリジナル作

品」へと、頭をひねりながら目指しています。

また、作品展だけの制作に留まらないために、二〇〇〇年花のカレンダー作成、昨年度は老人ホーム入所者全員の誕生日にきり絵の絵手紙プレゼント、本年度は、入所者の方が廊下を歩く時、心なごんでいただけような作品作り等にも取り組んでいます。

今は、きり絵の楽しさを伝えたく、八月の「全日本花いっぱい上越大会」出展にむけて、チエを出し合っています。
(上越市きり絵倶楽部)

若林 仕津子 (記)

どんなものにも芸術が:

月潟陶芸クラブ

上手もいないが下手もない。これが私達の楽しいサークルである。これも偶然なのかも知れないが構成会員の年齢が初老、定年退職、孫の手もかけなくともよい人たちの、丁度お互い話

がとともよく通じる集団である。発足からは十年位になるようだが、最初は老人会の陶芸を村当局から委嘱されたが、その老人会の割合に若い会員が「大変お



もしろいので是非別途で指導してもらいたい」との希望があったので重い腰を上げたのが始まりで、会員も増え現在十五名。一応活動日を指定して、そのときは研修として技能指導のようなものをやろうということにしたのであるが、陶芸の魔力に魅せられたのか、そんなことにお構えなしで殆ど毎日のように陶芸館(村が設立してくれた。まことに適当な施設)に来て懸命にロクロを回している会員もいる。そして勝手に上手になって来ている。

製作しなくとも時々ここへ来て自分の生き方を人に問うて帰る会員もいる。楽しい限りである。(月潟村陶芸クラブ)

金子 善次郎 (記)

燕市中央公民館

副理事・施設課係長 遠藤 文弥さん

「〇〇公民館の冷房が壊れた!」「ホールの蛍光灯が切れそうだ!」……とひっぱりだこの丈弥さん。公民館に来て3年目。あつちこつちと動き回るせいか、最近? kgもスリムになり、とうとう細めのズボンを新調してしまつた。



区公民館と市民ギヤラリーつばめ、隣接する勤労青少年

中央公民館のほかに八つの地区公民館と市民ギヤラリーつばめ、隣接する勤労青少年

素顔 拝見

青海町教育委員会生涯学習課

主事 仲谷大輔 さん

町の職員に採用され10年目、数多くの職場を体験しこの春に念願の(?)公民館担当職員となった仲谷大輔さんを紹介しましょう。



20キロと長い青海を走る毎日を送っています。

ご覧のとりのナイスガイでフルマソン完走という経歴の持ち主でもあります。夏はヒスイ拾いを兼ねての海水浴、冬はスノーボードと越後の自然を満喫しています。

公民館業務では町内16もの地区公民館管理を担当し、地区館からの要望に即、対応し東西約

ホームを管理していくのは、なかなかたいへんである。ご多分にもれず財政状況が厳しいなかで、彼がやせるのは無理らしいからぬことか!!

さて、名前は「たけみ」と読むのだが、「じょうや」で通っている。人一倍汗かきの「じょうや」さんは飲む量も半端じゃない。仕事のあとのおいしいビールと燕名物の太くて油が浮いているラーメンが大好きな彼の唯一の健康管理は、某会社の野菜ジュースを飲むことである。(燕市中央公民館 高桑紀美江 記)

これから夏に向けては1丁講習会、少年野球と行事が続きますが、彼にとつての最大のイベントは成人式で、早々と司会進行の練習を始めている彼にエールを送ります。

がんばれ!ダイスケ!
(青海町教育委員会生涯学習課 嶋田 猛 記)

